

平成 28 年度農業情報処理技術競技大会指導講評

教諭 川島 一秀（群馬県立伊勢崎興陽高等学校）

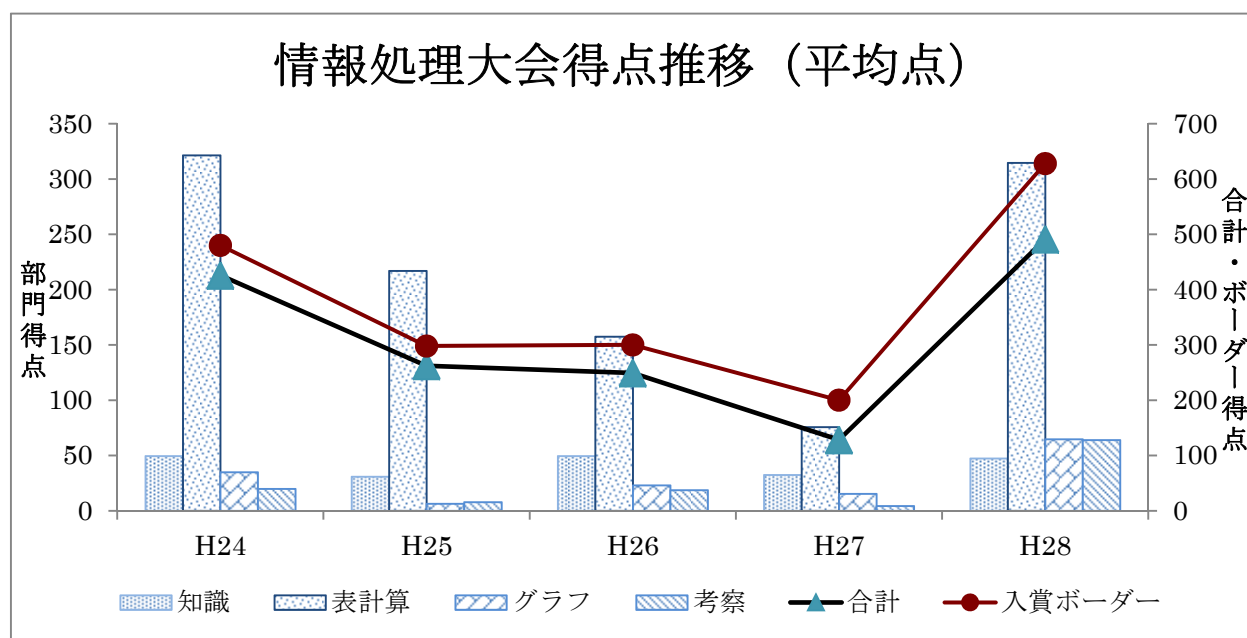
情報処理技術競技大会は、昨年度同様、東日本デザイン&コンピュータ専門学校を会場に開催されました。会場を提供いただいた日本デザイン&コンピュータ専門学校関係者皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

さて、昨年度の本紙面において、「大会出場を考えている生徒諸君は、全商『情報処理検定 2 級』に合格できる技能の習得を目指して日々の授業や放課後の活動を頑張って欲しい」と書きました。本年度は、事前打ち合わせ会議において出題範囲を「全商 2 級」にすることで合意できました。出題される関数の範囲が決まり、選手にとっても学習範囲が明確になった分勉強しやすくなったと思います。

下のグラフは、本校が幹事校になった平成 24 年度から本年度までの得点推移を示したものです。ご覧のように、平均点が 4 年連続で下降し、平成 27 年度の平均点は 120.8 点でした。平均点が下降した理由は、問題の難易度を少しずつ高めたためです。具体的な変更点としては、以下の 3 点です。

- ① グラフ問題で第 2 軸のあるグラフ（下図のように右側にも軸目盛のあるグラフ）を出題する。
- ② 「商業動態統計調査」から必要なデータを自分で見つけ出し入力する。
- ③ データ入力の際、VLOOKUP 関数を使えば効率よく作表できる問題にする。

今大会では、1000 点満点に対して平均が 200 点を割り込んでいる現状を改善しようと、出題者で話し合い、予想平均点を 500 点程度に設定した問題作りを心掛けました。結果は、部門得点の平均（左側軸）が、情報知識 47.4 点（前年比+14.8 点）、表計算 314.8 点（同+239.0 点）、グラフ作成 64.8 点（同+49.3 点）、考察文書 64.1 点（同 59.6 点）でした。合計点の平均（右側軸）は、491.2 点（同+362.8 点）、入賞ボーダー 628 点（同+428.0 点）とほぼターゲットどおりの平均点になりました。



最後に、農業情報処理大会への出場を考える生徒へのアドバイスを一つ。

コンピュータを使う学習の中で、疑問に感じたことをそのままにせず、その都度しっかりと自分の頭で理解するまで確認する習慣を身に付けて欲しいと思います。このような学習習慣を身に付けることによって、みなさんの力は飛躍的に伸びると思います。